

## 2. 寺内町のまち“富田”

弥生時代以前よりの台地であり、富田の地名は「屯田（とんでん）」（律令制以前の天皇家の御料田）がこの地に存在したことに由来するとされています。

平安時代、藤原師輔から息子尋禅に譲られた荘園の中に「富田荘」が見られます。後に天台座主となった尋禅によって比叡山延暦寺領に編入されました。後の戦乱で支配権が転々としたらしく、室町時代前期には室町幕府の直轄領となっており、臨濟宗普門寺が創建されました。

足利義満は妻の実家日野家の日野有光を同荘の代官に任じており、また、同家との関係の深い浄土真宗本願寺7世存如が光照寺（現在の本照寺）を創建しました。

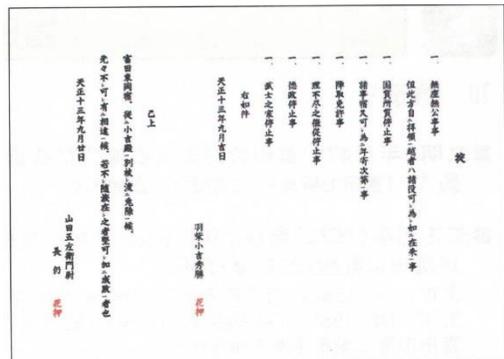
寛正の法難で延暦寺によって大谷本願寺を破却された本願寺8世蓮如を宥めるために管領細川勝元がこの地に寺地を与えて京都から立ち退かせようとしたのですが、蓮如が間もなく吉崎御坊に向かったために土地は一時店晒しとなりました。

後に蓮如が加賀一向一揆を避けて戻ってきた後に富田荘の光照寺に一時滞在し、1481年(文明13年)に教行寺を建立して8男蓮芸を住寺としました。以後富田は本願寺門徒が集り、寺内町が形成されるようになりました。

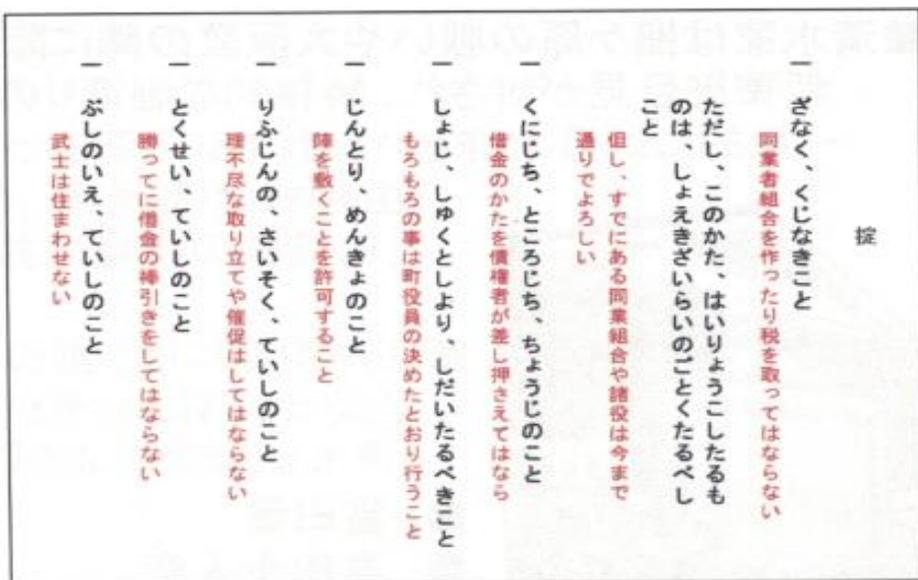
富田には、富田東岡宿と寺内町(富田道場蛤教行寺)の両面があります。

集落の北西は小川を環濠とし、東南は土塁をめぐらしていた。

豊臣秀勝の時代は「楽市楽座」が開かれ、住民には自治特権が認められていて、武士が住むことを許されなかった。



羽柴小吉秀勝(花押)天正13年9月(1585)



### • 羽柴秀勝の「掟」の説明